

## 令和2年度第3回総合教育会議

- 1 日 時 令和3年3月17日（水曜日）  
午後4時00分～午後5時40分
- 2 場 所 富士見市立中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘  
教育長 山口 武士  
委員 小野寺 巧  
委員 簗輪 菊雄  
委員 渡部 利枝子  
委員 深井 美千代
- 4 署名委員 委員 小野寺 巧  
委員 渡部 利枝子
- 5 説明職員 教育部長 林 みどり  
教育部長 齊藤 宏  
教育政策課長 鈴木 誠  
学校教育課長 石井 勝博
- 6 事務局職員 総務部長 古屋 勝敏  
秘書広報課長 森園 幸則  
秘書広報課主任 仲澤 大気
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事
  - (1) 埼玉県学力・学習状況調査について
  - (2) 新型コロナウイルス感染症について
  - (3) その他

## ○星野市長

日頃から、富士見市の教育の発展のため、多大なるご尽力を賜りまして心から御礼申し上げます。先週3月10日に富士見市議会の定例会が終了いたしました。当初予算357億円、コロナ対策に対しましては、2本の補正予算で10億を超える予算を組ませていただきました。

そして、これまで大変お世話になりました箕輪委員の後任といたしまして、横田豊三郎氏を任命いたします議案を提出し、可決いただいたところでございます。新しい年度になりますと、横田委員に加わっていただいての教育委員会会議となりますので、よろしく願いいたします。

さて、本市ではこれまでも、教育現場における、新型コロナウイルス対策緊急支援事業として、学習支援員やスクール・サポート・スタッフの増員などの独自の支援策に積極的に取り組んでまいりました。それらの支援策に加えて、今回の補正予算では、新型コロナウイルス感染症により、開催を中止又は内容を変更した、市内中学校の修学旅行や林間学校のキャンセル料の支援や、学校の保健衛生用品等を購入するための支援事業などを追加いたしました。

さらに、長引くコロナ禍の影響により、ストレスを感じている児童及び生徒について、医師と連携し、医療的見地から、学校教育における必要な対応への助言をしてもらう新たな教育相談事業にも取り組むこととしております。

そして、埼玉県を含む1都3県に3月21日まで再発令していた、緊急事態宣言につきましては、解除の方向と聞いております。しかしながら、まだまだ注意は継続していかねばならないと考えております。

感染拡大を防ぐ手段として期待されているのが、新型コロナウイルスワクチン接種でございます。今週の月曜日から、医療関係者の皆様に対しての、ワクチン接種が始まっております。高齢者を対象としたワクチンにつきましては、現在の情報では、4月26日の週に、国から県内全市町村に1箱（975回分）が分配される見込みとなっております。今後の国民へのワクチン分配については、具体的に示されていないため、次の大きな課題と捉えているところでございます。

一方で、我々としては、準備をしっかりとさせていただいております。集団接種の会場として、健康増進センターの体育館を使用する準備が整っています。また、市内の病床を持ってらっしゃる病院の皆様にご協力をいただいて、5つの病院で接種を行っていただくことが決定しました。さらに、一般の皆様にご接種をいただく場合には、開業医の皆様にもご協力をいただくとともに、増進センターの集団接種会場においては、富士見医師会の皆様にご協力をいただき、先生方に輪番制でご協力をいただく予定となっております。

市民の皆様には、不安をお掛けしているところでございますが、3月1日にワクチン接種に係る様々な問合せや相談ができる窓口として、健康増進センター内にコールセンターを設置し、日々市民の皆様からのお問い合わせに対応しているところでございます。

また、「ワクチンの予約から接種までの流れ」や、「ワクチン接種可能な医療機関」、「接種にあたっての留意点」などをまとめた『新型コロナウイルスワクチン接種の手引き』を昨日までに、全世帯に配布したところでございます。

ワクチンの有効性や副反応などを正しくご理解いただき、納得したうえで安心して市民の皆様にご接種を受けていただけるよう、今後も県及び医師会とも連携しながら、正確な情報発信、そして接種体制の整備に取り組んでまいります。

それでは、本日の総合教育会議では、「県学力・学習状況調査」のご報告をいただき、皆さんからのご意見等を参考にしながら、コロナ禍により影響を受けている子どもたちへの、さらなる支援策についても、検討してまいりたいと考えております。委員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日々、子どもたちのために何ができるのかということ、山口教育長をはじめ、担当部課長と、色々とやり取りさせていただき、また、私自身としても、日頃から考えさせていただいております。今年の357億円の予算の中にも、新たな教育関係予算として、小・中学校

体育館への空調設備導入を組み込んでおります。また、GIGA スクールに対してのコンピュータの配備は、今年度中に完了いたします。そのため、来年度は、様々な情報機器の購入など、先生方や子どもたちが学習する上で、必要な機材を購入するための予算や、つるせ台小の校庭を芝生化する予算を組ませていただきました。

子どもたちの学力向上のためには、私自身は、先生方に力を付けていただくことが、一番の方法論だと思っております。そのためには、先生方が、子どもたちのために、頑張っていただけよう、支援していくことが、重要だと考えております。

本日の議論の中では、先生方への支援といった視点から、私自身も発言させていただきまので、ご議論をいただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

### ○森園秘書広報課長

ありがとうございました。本日は、説明員として林教育部長、齊藤教育部長、鈴木教育政策課長、そして、今回の議題が「埼玉県学力・学習状況調査」「新型コロナウイルス感染症の学校における影響」ということで、所管課長であります石井学校教育課長が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、今後の進行につきましては、星野市長にお願いいたします。

### ○星野市長

それでは会議に移らせていただきますが、その前に、本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員に、小野寺委員と渡部委員を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

さて、議事の(1)として、まず「埼玉県学力・学習状況調査について」議論してまいりたいと思います。

後ほど担当課長から詳しく説明をいただきますが、今年度の埼玉県学力・学習状況調査は、コロナ禍での実施となりました。これまでとは違う環境での調査でしたので、改めて、その調査結果・分析結果をご報告いただき、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。そして、今後の事業展開や授業改善等に活かしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、今年度実施いたしました「埼玉県学力・学習状況調査」について、石井学校教育課長より説明をお願いいたします。

### ○石井学校教育課長

それでは、資料の1をご覧ください。今年度は例年より約2か月遅い、令和2年6月26日に、埼玉県学力・学習状況調査が行われました。本郷中、東中においては、29日に実施しております。調査方法や内容は例年と変更ございません。臨時休業の影響により、調査を実施しなかった自治体もありました。

結果につきましては、コロナ禍の実施となりましたが、結果の数値から大きな変化はなかったと考えております。これは、県内すべての学校において、同じ状況だったことが考えられます。本調査の目的である「伸び」という点では、小中ともに埼玉県平均の伸びを上回ったということで、富士見市としては、喜ばしいことでございました。

次に、4年間の推移というところをご覧ください。中学2年生・中学3年生になると、県の学力を上回る部分が多くなっていくということが、この表から判断できます。これを考察すると、富士見市では小学4年生から中学3年生にかけて、子どもたちの力が徐々に付いているということがわかります。小学生に入ったときには、まだ十分な力を蓄えていない状況ですが、9年間を通して、卒業時にはしっかりとした力を付け、県を上回る学力が身に付いていると捉えております。

5番の調査結果を踏まえての取組みについてご説明いたします。各学校においては、限られた時間、制限された環境の中で、授業の工夫が強いられた状況でありました。一方で、県学力・学習状況調査において「非認知能力」と「学力」の関係が明らかにされたこともあり、

各校が行事をすべて中止にするわけではなく、縮小したり、内容を変更したことにより、学級の仲間との繋がりや、達成感、自己肯定感の向上に繋がったのではないかと考えております。

また、教育課程研究委員会という、各学校の教務主任級の先生方が一堂に集まる委員会がございます。この委員会で、各学校の取組みや課題を情報共有し、新しい生活様式の中で、どのぐらい授業が進んでいるか、今後どんな工夫が必要なのかということ、数回にわたって、話し合いを重ねながら進めてまいりました。

そして、ICTの活用も積極的に進められ、効果的な指導に結び付けられていると感じています。今ある大型テレビやプロジェクター、パソコンなどもうまく活用しながら、より効果的な指導が出来ていたと感じております。

市からの支援として、補助金により学習支援員の増員を行わせていただき、個々の子どもたちの指導という部分で、大変効果的だったと感じております。また、中学校3年生を対象として受験講座を開講させていただきました。60人定員のところ、37名の応募ではございましたが、ほぼ第一希望に受かったと聞いておりますので、大変良い機会をいただけたと考えております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、出張等が中止や縮小したことで、学校にいる時間が多くなり、学校内での教員同士の話し合いなどは増えたと認識しております。先生方に聞くと、3分の1ぐらい出張等がなくなったと聞いております。学校にいる時間が増えたことにより、校内の話し合いの機会を設けられたことで、良い面もあったと考えております。

次に、6「コロナ禍、一斉休校等による児童生徒の学力への影響」についてご説明します。今回の結果は、昨年度の授業による伸びが見られたものであります。そのため、来年度の調査が、本年度の学びの検証となることから、丁寧な分析が必要であると考えております。また、実験・実習については、制限され実施できておりません。現在も緊急事態宣言中であり、そういった授業ができなかったことは大きな影響だと思えます。さらに、新学習指導要領で注目されている「主体的・対話的で深い学び」につきましても、十分な取り組みができなかったことから、今後の影響が心配されております。

7「調査結果のデータを活用した授業改善に向けて」について、説明いたします。例年であれば、市の先生方を集め、学力を伸ばしている先生の授業を参観し、どういう授業をしているのかということ、を共有しております。また、その際に、工夫している点や課題について、先生同士で話し合う場を設け、授業力向上に結び付けていました。しかし、今年度は、残念ながら、コロナ禍によりそのような場が設けられませんでした。

一方で、小学校3名・中学校3名の先生を集めた「学力向上プロジェクトチーム」で会議を開き、新しい生活様式の中で「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現していくのかということ、を協議し、資料2のリーフレットを作成しました。こちらを、各学校に周知し、先生方がどのように授業を進めていけばいいのか、という悩みの解決の参考になればと考え作成いたしました。

続いて、8「伸び悩みを抱える学校への支援策」についてです。教育委員会では、担当指導主事が、学校を訪問し、各学校の課題を把握したうえで、指導助言を行っております。また、学校の要請に応じて、学校研究、個人研究の指導者になったり、指導者を招聘したりしております。

最後に、9「アンケート調査による児童生徒の生活面での変化」になります。質問調査から設問を抜き出して比較した表を、資料に掲載しております。「自分にはよいところがある」という設問に対し、「思う・どちらかといえば思う」と答えた人の割合を、令和元年度と令和2年度を比較しております。令和元年度の小学4年生と、令和2年度の小学5年生といったように、斜め右下で比較をしていただければと思います。やはり、この一年コロナ禍ということもあったのか、自己肯定感が下がっているということが見受けられます。また、質問調査以外の部分で、各学校が規則的な生活習慣が乱れないように取り組んでまいりましたが、体力面での低下が心配されているところがございます。先生方からも、「何もないところで転んでしまう子がいた」「準備運動を丁寧に行わないと心配」という声を伺っております。

緊急事態宣言が発令され、外遊びがかなり減ってしまったことにより、家で過ごす時間が増えてしまったことが、要因であると考えております。

### ○星野市長

ありがとうございました。

只今、石井学校教育課長から、「埼玉県学力・学習状況調査」について、ご報告をいただきました。

委員の皆様からご意見を伺う前に、学校教育課長に1点伺いたいと思います。私が市長に就任し、これまで、支援策ということで、子どもたちが家庭で自ら学ぶ習慣付けができるよう、家庭学習応援事業などの取組みを実施してまいりましたが、実際に学校の先生を見ている立場から、これらの取組みに対しての成果や評価について、コメントをいただきたいと思っております。もう一つは、退職されたベテランの先生や校長先生に指導員となっていただき、若手教員の皆様に力を付けていただく若手教員育成指導員という支援を行っております。こちらについても、現場の声を聞かせていただければと思います。

### ○石井学校教育課長

家庭学習応援事業につきましては、子どもたちが学習する場として、学校でも塾でもないところで学べるということで、非常にありがたい事業だということ、様々な場で聞いております。また、家庭学習応援事業の目的である、家庭学習の習慣化という部分でも、身に付いてきている子どもたちもいらっしゃると伺っております。学校でもない塾でもない、中間的な役割を担っていただき、場所も公民館などの公共施設を使用することにより、新鮮な気持ちで子どもたちも学習ができていると捉えております。また、保護者の方からも、「今年はコロナ禍でもあり、学習面で不安を抱えていたが、こういった機会があって良かった」というお声や、「宿題をする時間が増え、必然的に勉強時間が増えた」というお声もいただいております。来年度からは、算数一科目に絞ると生涯学習課から聞いておりますが、新学習指導要領では、プログラミング教育が示されている中で、数学的な考え方や科学的な思考力が重要になっていることを考えると、算数一つに絞ることは良いことではないかと考えております。また、一つの教科を一生懸命頑張ることにより、他教科にも繋がっていくのではないかと捉えております。

続きまして、若手教員育成指導員につきましては、若手の先生からは、「授業のやり方だけでなく教師のあり方など、幅広く具体的に指導いただけているので感謝している」といった声や、「教員として先輩であることはもちろん、人生の先輩でもあり、また、社会人の先輩でもあるので、立ち振る舞い等も含めて勉強になっている」と聞いております。また、授業法だけでなく、子どもとの関わり方なども相談に乗っていただけているということで、先生方の心の支えにもなっていると伺っております。現在は、小学校だけの配置となっておりますので、今後においては、教育委員会としましても、中学校への拡大に向けて、検討してまいりたいと考えております。

### ○星野市長

ありがとうございました。2つの事業についてご報告をいただきました。もう一つ質問させていただきます。資料1の埼玉県学力・学習状況調査の平均正答率の表をいただきましたが、この表から、中学生の成績は、県平均を上回って、大きく伸びを示しているということを実感しました。一方で、小学校の4年生・5年生・6年生の状況はどうかということを伺いたいと思います。来年から、家庭学習応援事業は、小学校5年生に加えて小学校6年生を対象といたします。生涯学習課が担当となりますが、保護者の皆様からのお声や、中学生への準備段階・変わり目ということを踏まえ、学年を増やすということになりました。小学校4年生から6年生の3年間で、成果を見せている部分や、もしくは至らない部分もあるかと思っております。先生方の評価や、表から見える部分について、コメントをいただきたいと思っております。

### ○石井学校教育課長

なかなかこの表だけで見ると、伸びているということも分かりにくいところではございますが、小学校の子どもたちも、1年生から6年生までに、しっかりと力を付けていると感じています。また、教育委員会として、各学校を訪問しておりますが、高学年になるにつれて、子どもたちは、落ち着いて学習に専念しており、先生方の授業もより良い授業になっていると感じています。また、校長先生方にお話を聞く中でも、先生たちや子どもたちの頑張りが以前よりも聞こえてきますので、今後この表も少しずつ県平均を上回っていくのではないかと思いますし、またそうなるよう学校教育課としても指導してまいりたいと思います。

### ○星野市長

ありがとうございます。確認ですが、この表の見方として、平成29年度の国語においては、小学校4年生だと66.2点の子たちが、小学校5年生となると、55.9点ということで斜め右下を見るということによろしいでしょうか。

### ○石井学校教育課長

そのようになります。

### ○星野市長

年度ごとに問題が違いますので、点数の絶対値で評価することはできないと思いますが、確認させていただきました。冒頭に私どもが行ってきている事業の評価と、課題であろう小学校の部分についてコメントをいただきました。それでは、委員の皆様から、ご意見やご質問を頂戴できればと思います。

### ○箕輪委員

市長の質問ともリンクしますが、以前、若手教員育成支援事業により指導された先生方と、他の先生と比較すると、指導を受けた先生の方が、学力テストの結果が良かったと伺いました。その傾向は、今でも続いているのでしょうか。

### ○石井学校教育課長

数値的な部分でお答えできる資料を持ち合わせておりませんが、私たちが見る限りでは、指導を受けた先生たちの方が、より授業に向き合う姿勢や授業の内容が良くなっていると感じております。

### ○箕輪委員

次に、5「その後の取組みについて」の中で、「出張等が中止や縮小したことにより、学校内での先生同士の話し合いが増えた」とあります。来年度以降の埼玉県学力・学習状況調査で、学校内での先生同士のコミュニケーションが増えると、子どもたちにも反映され学力が向上するののかという視点での分析をお願いできればと思います。

また、学力向上プロジェクトチームで分析したものを、例年公開していると書いてありますが、教育委員には部分的にしか伝わってきておりません。教育委員としても知っておいたほうが良いと思いますので、プロジェクトチームが分析した内容は、教育委員会会議でもお知らせいただきたいと思います。

9「アンケート調査による児童生徒の生活面での変化」につきましては、全体的にみると、自己肯定感が下がっているとの説明がありました。一方で、小学校6年生と中学校1年生を比較すると、上がっていることが分かります。ここから考察すると、先程の埼玉県学力・学習状況調査の成績との相関からも、中学校に上がると様々な面で前進しているという点が見られていると思います。以前は、中学校に上がると「不登校が増えること」や「中1ギャッ

プ」と言われるマイナス面がありましたが、富士見市においては、良い面があるのではないかと捉えることができますので、ここの分析をもう少し詳しくしていただきたいと思ひます。

最後に、子どもたちにとって、全国学力・学習状況調査があつて、埼玉県学力・学習状況調査があると、なかなか負担が大きいのではないかと推測しております。もしも負担になるのであれば、埼玉県学力・学習状況調査だけに絞り、先生たちも子どもたちと接する時間を増やせば、子どもたちも伸び伸びと学習できるのではないかと考えますが、全国調査はどうしてもやらなければならないものなのではないでしょうか。

#### ○石井学校教育課長

貴重なご意見等ありがとうございました。

まず、プロジェクトチームの分析につきましては、教育委員の皆様を示さなければならぬことだと思ひますので、次年度以降はしっかりとお知らせしてまいりたいと思ひます。

また、小学校6年生から中学校1年生にかけて、自己肯定感が向上しておりますので、できる範囲で分析してまいりたいと考えております。また、先生同士の話し合いが増えることと、学力の相関ということについては、分析が可能かどうかははっきり言えませんが、調べてまいりたいと思ひます。

最後に、全国学力・学習状況調査については、小学校6年生と中学校3年生だけで、学年が決まっています。しかし、埼玉県学力・学習状況調査は、継続性があることから、伸びがわかりやすいという違いがあると認識しております。全国学力・学習状況調査については、問題の質もかなり良くできている部分もありますし、また、生活のアンケートの部分も充実しておりますので、富士見市としてもトライして、結果を分析していくことも必要であると考えております。

#### ○小野寺委員

1点目は感想になります。数年前に同じ議題を総合教育会議で協議をいたしました。その際に、私が発言した内容を思い出しました。まず、学校訪問で授業の様子を見てみると、先生たちがしっかりと教えており、子どもたちもそれに応えて一生懸命勉強して、非常に良い授業態度が見られているということ。それから、市長が教育に非常に関心があつて、教育環境の充実に努められていること。さらに、教育長の学力向上策がしっかりとしたものできており、先生方も一生懸命努力されているということ。これらのことから考えると、数年後には必ず学力の向上が期待できるので、このまま頑張っていたいただきたいという発言を数年前にしました。それが、現実となり本当に良かったと思ひます。これからも、皆さんのお力をお借りし、更に学力が向上していくよう期待しております。

2点目は、なかなか言いにくいことですが、学校の先生方にとって、出張はかなり負担だと思ひます。今年度は、出張が取りやめになったり、縮小になったりすることにより、先生が学校にいる時間が増えました。そうすると、子どもたちと話す時間が増え、行事や授業について考える時間も増えるなど、良い面があつたと捉えております。その辺の現場の先生の声を踏まえ、今までより出張等が減るように、埼玉県教育委員会に働きかけていただくと良いのかなと思ひました。

#### ○渡部委員

この埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ると、先生も子どもたちも一生懸命頑張っている印象を受けました。今も昔も子どもたちの学力を上げるためには、教師と家庭のやる気の部分が大きいと思ひます。学力向上プロジェクトチームの、学力を伸ばしている学級の特徴を分析するというのは、とても大事なことだと思ひます。

やる気には、モチベーションとテンションがあるということを知ることがあります。テンションというのは上がったらず必ず下がりますので、如何に子どものモチベーションを維持するのかということが、教師の力量だと思ひます。同時に、教師側もモチベーションを保たなければなりません。今の教師の皆様にとっては、忙しすぎると感じています。

また、家庭で必要なことは、学習時間を増やすことだと認識しております。家庭学習時間と学力は比例すると思いますので、家庭学習応援事業は、非常に良い取り組みだと思います。

世帯収入と子どもの学力は、比例すると言われています。富士見市は埼玉県の中でも上位の方だと思いますので、この数字を見る限りでは、工夫次第でもっと学力は伸びてくると思いますし、今後にも期待したいと思います。

### ○深井委員

緊急事態宣言を受けて、休業期間が続きました。通常の授業が始まって以降、土曜日授業が始まりましたが、学力の向上等に効果があったのでしょうか。

### ○石井学校教育課長

土曜日授業や夏休みの短縮等は、休業期間の3か月を取り戻すために、必死に取り組んだところがございます。それが直接学力の向上等に繋がったかということは、把握しておりません。しかしながら、そのおかげで、なんとか遅れていたものを取り戻すことが出来たと考えております。

### ○深井委員

このコロナ禍で、学校に通う子どもたちを見ている中で、学校の先生が多くの子どもたちに「今が頑張り時だよ」と声を掛けているのが印象的でした。

中学1年生の子たちを見ていると、小学校までとは違い、自分の責任として、自分で決断することを教わります。自分の強みを見つけて、自信に繋がっていくという部分もあれば、弱いところも認め、それをみんなでカバーしていくといった経験を通して、自己肯定感の向上等に繋がっているのだと思います。そのような場面を目の当たりにし、改めて中学の3年間は、大事な期間だと実感しました。

### ○山口教育長

私の考えを3点述べさせていただきます。

1つ目は、渡部委員からモチベーションの話がありましたが、自尊感情が高いことは、学力だけでなく、生きる力・精神の安定・人へのやさしさなど、全てに繋がるものと考えております。そして、人間関係が良いと、学力も伸びやすくなると思っています。「非認知能力」という言葉もありますが、そういったことはこれからも大事にしていきたいと考えております。学力テストの点数を上げることも、教育の大事な使命の一つではありますが、そこだけに絞るのではなく、モチベーションなどの基盤を大事にしていきたいと考えております。

2つ目は、平均で物を見がちですが、実際には、学力や個人のモチベーションにおいても、個人差がかなり大きいのが事実としてあり、そこに気を付けなければなりません。全てにスポットを当てていくことは難しいため、重点化するのはどこで、どんな施策・手段を取るのかということを見極めることが重要だと考えております。現在、市の施策として、モチベーションが低い子どもたちや、学力の伸びしろのある子どもたちに、しっかりと力を付けていくということで、重点化して取り組んでいるところです。

最後に3つ目は、ICT環境についてです。しっかりと予算をかけていただき、環境整備をしていただきました。これを目的とするのではなく、手段としてうまく使わなければなりません。どう使うと、どんな効果に繋がるかということが大事であり、そこを見極めていかなければなりません。長い時間触れていれば、学力が身に付いて、人格も高まるというわけではありませので、効果的な活用を見極めていくことが大事だと考えております。ICTを上手く活用していくことが、これからの社会を生きていくための大事なスキルだと考えておりますので、しっかりと活用してまいりたいと考えております。

### ○星野市長

委員の皆様方から、多角的にご意見・ご指摘をいただき、ありがとうございました。



最後にもう一つご提案をし、皆様の考え方をお聞きしたいと思います。先程からお話ししているとおり、市では家庭学習応援事業や若手教員育成支援事業などを実施してまいりました。家庭学習応援事業は教科を絞ったり、学年を増やしたりとマイナーチェンジをし、効果を高められるよう試行錯誤しております。

令和3年度につきましては、7月から8月にかけて、令和4年度の様々な事業について、それぞれの担当課から実施計画が提出され、新たな事業や新たな制度について、検討をしております。私としては、冒頭のあいさつでも申し上げましたが、学校予算の拡充をしてみたいと考えております。1点目は、GIGAスクールについてのことで、先程、教育長からも話がありましたが、これから実践が始まり、色々な課題や問題が出てくると思いますので、これに対応してまいりたいと考えております。

2点目は、先生たちに力を付けてもらうために、支援策を拡充したいと考えております。石井学校教育課長から、学力向上プロジェクトチームについて、先程ご説明がありました。具体的なことは、まだ申し上げられませんが、このチームや分野における支援策を入れてみてはどうかと考えております。来年度、この学力向上プロジェクトチームの研究を実際に見てみたいと考えておりますが、この事業をしっかりと分析し、効果が見込まれるものを多くの先生方と共有してもらいたいと考えております。特色ある学校づくり事業の補助金により、学校に対して支援の予算を付けておりますが、これとは別に、個人個人が勉強したいという意欲がある先生方に対して、後押しをしたいと考えております。

最後3点目が、若手教員育成支援事業について、中学校の先生方にもこの環境をつくれなにかと思っております。教科担任制など、小学校とは違う環境ではありますが、ぜひこの若手の先生への支援を中学校まで拡充をしてみたいと考えております。

この点について、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

### ○箕輪委員

私は賛成です。プロジェクトチームにアドバイザーなどを招聘し、より深く専門的な見地から助言をもらおうと、さらに良くなると思っております。

### ○小野寺委員

三つとも大変ありがたい事業だと思います。特に若手教員育成支援は中学校にも拡大してもらいたいと、私も考えております。GIGAスクールへの対応についても、まだまだ始まったばかりであり、これから様々な課題が出てくると思いますので、こちらもぜひお願いしたいと考えております。

また、プロジェクトチームの予算については、現在、学校研究・個人研究・グループ研究に対して予算が付いていると思っておりますが、プロジェクトチームだけでなく、こういった各研究に対しても、工夫をしながら拡充していただければと思います。

### ○星野市長

市では、令和元年度から「私立幼稚園特色のある幼児教育推進事業補助金」を創設し、特色のある幼児教育を行う私立幼稚園の取り組みを支援しています。これと単純に比較することはできませんが、私としては、学校の先生に対しましても、勉強の意欲がある方に対し、後押ししてまいりたいと考えております。また、埼玉県教育委員会の先生ですので、異動により他の市に行ってしまう可能性も十分にあります。しかしながら、他の市で学んでいただいた後、富士見市でもう一回教鞭を取りたいと思っただけのような支援策に取り組んでまいりたいと考えております。

他にご意見はありますか。

### ○渡部委員

私も賛成です。力のある先生に教えてもらおうと子どもたちも伸びると思います。一方で、先生方は夜遅くまで仕事をされていて、もう少し負担を減らしていただくようにできないかと考えております。子どもたちのための仕事に注力してもらいたいと思います。

### ○深井委員

子どもと話す中で、先生の出張が多く不在だという話を良く聞きます。週に何回もあつたりすることもあり、別の先生が教鞭を取るということも聞きます。そうすると、コミュニケーションも取れないと思いますので、もう少し出張等を減らし、子どもたちのための時間を取っていただけたらと思います。

### ○星野市長

先生の負担を減らすため、スクール・サポート・スタッフを増員いたしました。これを緊急時だけでなく、平時においても、先生の雑務を減らすため、取り組んでまいりたいと考えております。

### ○山口教育長

これまで、試行的に4校で行っていたものを、令和2年度は、国からの支援で、全校に拡充いたしました。それを、今お話があったように、令和3年度は市の当初予算として位置付けていただきました。この効果をしっかりと検証し、さらなる増員が効果的であれば、それを提案していきたいと思います。

なにより、皆さんがおっしゃったように、教員が子どもに向き合う時間を増やすこと、そして、質を上げることが重要だと考えております。

### ○箕輪委員

先生方の時間を確保するという観点で、教員の免許更新制が、現場の先生にとってかなり負担になっているとお聞きしましたが、どうでしょうか。

### ○石井学校教育課長

特にそのような話は伺っておりません。

### ○山口教育長

国の制度ですので、申し上げにくい部分もありますが、どこまで効果があるかというのが検証されていないのが気掛かりです。国において検討を始めたということ、報道で知りましたが、必要であれば見直していただきたいと思います。

### ○星野市長

ご議論をいただきありがとうございました。私が発言させていただいたことに関しましては、良い報告ができるよう今後努力してまいりたいと思います。

続きまして、(2)「新型コロナウイルス感染症の影響について」を議題とさせていただきます。このテーマは、8月・12月に行われた総合教育会議でも意見交換をさせていただきました。年度末を迎える中で、学校現場における状況も刻々と変化してきておりますので、改めて議題とさせていただきたいと思います。

はじめに、事務局より、新型コロナウイルスワクチンの接種について、現在の状況をご説明申し上げます。

## ○森園秘書広報課長

資料3をご覧ください。昨日までに、全世帯に配布した資料になります。2月26日時点の情報ですが、現在のところ大きく変更はございません。今後変更になる可能性もございます。

まず、ワクチンの予約から接種までの流れをご説明させていただきます。このパンフレットにも書いてあるとおり、接種対象者の順番が決まっております。最初に医療従事者が接種対象者になりますが、こちらは埼玉県が中心となり接種することとなっております。市が中心となって接種するのが、②～④の対象者となります。65歳以上の高齢者への接種に関しては、報道等で知らされているとおり、4月26日の週に、各市町村にワクチン1箱が届けられる予定です。

接種券に番号が書いて送られてきますが、予約の際にはこの番号が必要となります。予約方法は二通りあり、一つの方法はコールセンターに電話する方法です。増進センター内にコールセンターを設置しておりますので、そちらにお電話をいただき予約するという方法です。もう一つの方法が、WEB予約です。スマートフォン等で、専用ウェブサイトアクセスしていただき、予約する方法です。また、このシステムの中には、AIのチャットボットが入っており、簡単な質問であれば、24時間答えられるようになっております。また、左下に、実際のワクチン接種会場での流れが書かれておりますが、今後シミュレーションをしていくこととなります。

次に、ワクチン接種が可能な市内医療機関等の一覧という部分をご覧ください。集団接種会場は、健康増進センター1か所となります。個別接種会場は、こちらに書かれている5つの病院が会場となります。また、サテライト型の施設ということで、個人病院やクリニックなどにご協力をいただき、今後、順次接種していただく予定となっております。

最後のページにワクチン接種のQ&Aが示されております。私からの説明は以上となります。

## ○星野市長

ありがとうございました。続いて、学校における影響について、学校教育課長よりご報告をお願いいたします。

## ○石井学校教育課長

それでは、資料4をご覧ください。現在も、部活動の制限があり、合唱や合奏、調理や実験ができなく、教育活動に大きな影響を与えています。コロナ禍の新しい生活様式にも慣れ、マスクのある生活、手洗い、ソーシャルディスタンスなどを意識した生活をしております。教職員は消毒作業が定例業務となっており、感染防止に努めております。また不要不急の外出ができず、先程も申し上げましたが、外での遊びが制限され、家の中でのゲームやスマホで遊ぶ時間が増え、体力や健康面での影響が心配されています。

2「学校行事の実施状況」についてです。令和2年度の卒業式・終業式につきましては、感染防止対策をしっかりと取ったうえで、実施いたしました。歌唱を無くし、時間の短縮、終業式については放送等を活用し、試行錯誤しながら実施いたしました。令和3年度入学式につきましても、同様の対応となると考えております。修学旅行につきましては、資料に書いてあるとおり、延期となっております。

3「心の面」についてですが、やはり、人とのかかわりが少なくなっています。また、家で過ごす時間が長くなり、生活のリズムに乱れが生じ、登校渋りが始まるケースも増えてきております。教育相談室における、相談件数が例年より増えており、8月から11月にかけては昨年度の2.3倍、一昨年と比較すると3倍の相談件数がありました。また、30日以上欠席者数が、12月現在、昨年度の同時期と比べ、中学校では85%、小学校では148%という結果となっております。中学校の増加率が減っているように見えますが、休業期間で全体の授業日数が少ない中での数値と考えますと、減ったとは言い切れなく、小学校ではかなり増えてきているという現状です。

以下、参考として資料を載せさせていただきましたが、やはり全体的に、不登校の児童生徒数や教育相談室への相談件数ともに、増加傾向にあると捉えております。以上です。

#### ○星野市長

ありがとうございました。

学校の状況につきましては、随時報告をいただき、協議してまいりました。ただ、やはり、日が経つにつれ、新型コロナウイルス感染症の影響が、子どもたちに重くのしかかっているように感じます。ご意見やご質問を頂戴したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

#### ○箕輪委員

感染経路の判断について質問です。家庭内感染の判断については、例えば、3人家族で3人とも感染経路が不明な状況であったときに、1人は感染経路不明、他の2人は家庭内感染と判断されるものでしょうか。

#### ○森園秘書広報課長

感染経路の判定は、県が調査しております。感染者が確認された場合、学校や職場等で濃厚接触者を調べ、PCR検査をしております。基本的には、家族は濃厚接触者となることから、その家族が陽性者となった場合で、他に感染経路が考えられない状況であれば、家庭内感染と判断していると想定されます。

#### ○箕輪委員

陽性者の入院状況についてお聞きします。重症者については、県から情報は来ないということでしょうか。

#### ○森園秘書広報課長

そのようになります。

#### ○箕輪委員

学校の状況について質問です。30日以上欠席者が増加しているとのことですが、学年別に違いはあるのでしょうか。

#### ○石井学校教育課長

今手元にデータが無いので、数字としてはお答えできません。しかしながら、新1年生にとっては、最初のスタートから4・5月が休校となり、6月に始業式を迎えたということで、不安が大きかったものと考えております。

#### ○箕輪委員

資料3の接種券の関係で質問です。市としては、65歳以上の高齢者から、接種開始していくとのことですが、年齢別に区切って発送するなどの、細かい部分は決まっているのでしょうか。

#### ○森園秘書広報課長

健康増進センターに確認していますが、現段階では、そういった区分を分けての発送はしないと伺っております。ワクチンの届く分量が不確定であり、また分配も少ない状況ですので、場合によっては、今後変更となってくる可能性もあると考えております。

#### ○小野寺委員

私の住む自治体では、資料3のような資料は、届いておりません。しっかり、情報発信されていて、非常に素晴らしいことだと思います。

市独自の事業で、新型コロナウイルス感染症の影響で、ストレスを抱えている児童生徒について、医師と連携し、医療的見地から学校教育で必要な支援などの助言をもらうという話をお聞きしましたが、今ご報告いただいた、心の面や不登校などについてもケアしていただけるということでしょうか。

#### ○石井学校教育課長

富士見市としましても、ソーシャルワーカーや相談員がおりますので、まずはしっかりと相談を受け、必要に応じて、医療に繋げてまいりたいと考えております。

#### ○山口教育長

病院からの積極的なアプローチがあったこともあり、学校との連携については、これまでも行っていただいております。今年度においても、専門家の方に、保護者との面談などご協力をいただいております。この実績に基づいて、新型コロナウイルス対策支援事業として予算化し、しっかりと連携して取り組んでまいります。

#### ○深井委員

子どもたちも気持ちが沈んでいる中で、お祭りやイベントがあると、少し変わってくると思います。子どもフェスティバルなどのイベントについて、今後の再開見込みはいかがでしょうか。

#### ○林教育部長

子どもフェスティバルについては、鶴瀬公民館を中心として全庁事業として取り組んでおります。令和2年度については、残念ながら開催できませんでした。令和3年度は、今の段階では、時期や場所を変更し、開催に向けて検討しております。

#### ○深井委員

バザーなども実施する方向でしょうか。

#### ○林教育部長

実行委員会形式で実施しておりますので、詳細については、今後検討していくこととなります。何とか開催に繋がれば良いと考えておりますが、まだまだ油断できない状況であると認識しております。

参加者を多く集めての開催というのが、難しい場合であっても、オンライン配信などの新たな手法や、工夫をしながら取り組んでいけたらと考えております。

#### ○深井委員

ありがとうございます。

#### ○渡部委員

私は医療従事者ですので、接種券が既に来ておりますが、予約ができない状況です。見込みが立たない中で、スケジュールも後ろ倒しになっているように感じています。

また、ワクチンを接種した後でも、子どもたちには、マスクの着用など我慢をさせなければなりませんので、大変心苦しく、今後しばらく生活は変わらないと感じています。

#### ○星野市長

緊急事態宣言が解除になった後につきましても、新型コロナウイルス感染症対策本部は継続し、公の施設の開放や、市のイベントの開催は、状況に応じて制限することが必要だと、私としては認識しております。今後の感染状況を注視し、埼玉県の方針等も踏まえて、市の対応を決定してまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

ありがとうございました。今後も子どもたちを取り巻く環境は、厳しい状況が続くことが見込まれます。一方で、新しい事業も始まりますので、しっかりと効果を検証し、引き続き支援してまいりたいと考えております。

それでは、本日用意しました協議事項については、以上となります。貴重なご意見をいただきありがとうございます。いただいたご意見を踏まえ、私が申し上げた内容につきましては、教育委員会とともに努力させていただき、具体化できるように尽力いたします。

長時間にわたり、ご議論いただきありがとうございました。最後になりますが、箕輪委員におかれましては、富士見市教育委員として、これまで11年間ご活躍をいただきました。心より感謝を申し上げたいと思います。今後におきましても、ぜひ、ご指導を賜りたいと思います。

これからもご健勝にて、益々ご活躍されることを、心よりご祈念申し上げまして、本会を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。